



世田谷区議会議員

世田谷行革110番

もっと多くの区民の皆さんに読んでもらいたい号です。

おおば 区政報告

〒157-0063 粕谷3-15-3 (TEL&FAX 3307-1179) 110ban@t3.rim.or.jp

グーグル検索等で、おおば 正明 と入力すれば おおば正明 @ 世田谷区議 がヒットします。私のホームページです。

<http://ooba.muse.bindsite.jp/>

特別編集号 2015年2月

首都直下地震で火災発生！ 最大の被災地は世田谷区 区内に消防車は何台あるか？



消防活動困難地域とは

実は昨年2月25日の代表質問で初めて世田谷区内の消防活動困難地域の問題を取り上げ

ました。消防活動困難地域とは幅員6m以上の道路が不足していて消防活動が困難な地域のことです。要は消防車が近づきにくい地域のこと。それを示したのが下の図。(茶色の地域が消防活動困難地域・水色は住宅密集地で危険性が高い地域)世田谷区は下図のように、中心部を左右(東西)に横切る黒い線(世田谷通り)を境に上下(南北)で道路事情が全く異なります。そのことが消防活動の困難さに正比例しています。



世田谷区内に消防車は何台？

世田谷区内には、

世田谷消防署、玉川消防署、成城消防署と3つありますが、それら全部の消防車(ポンプ車)をあわせても24台です。区内の火災件数は少し古いですが平成21年の統計で274件です。それから考えれば平時での24台は十分でしょう。(※消防車は通常区境を越えて来ます。区内だけが担当ではありません。がしかし、首都直下地震の際は区外からの応援を頼めるでしょうか。それぞれの管内で手一杯のはず)

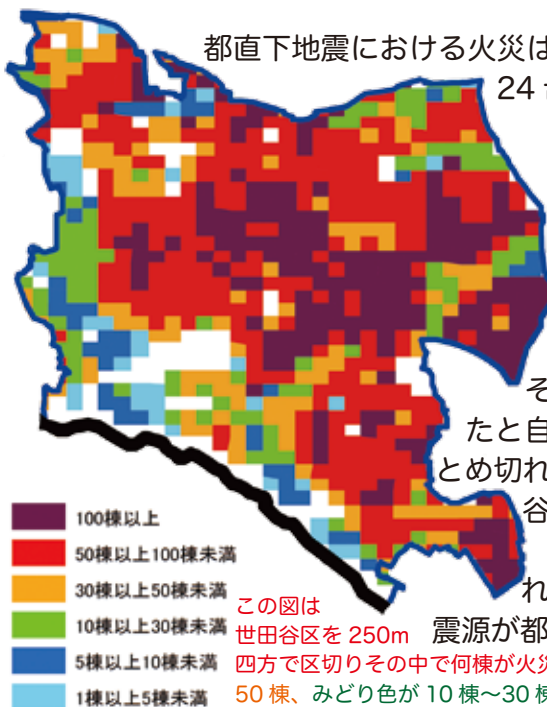
ホースは届くが

実際、消防署に確かめたところ、現状では消防車が入れなくてもホースが火災現場に届かない地域は世田谷区ではないそうです。しかしそれはあくまでも平時の話。被災直後の混乱では無理。

世田谷区の首都直下での火災は

中央防災会議の被害想定が出されたのが一昨年12月。東京都は既に平成24年4月に東日本大震災の教訓を元に地域防災計画の修正をしています。それに基づいて世田谷区的首

都直下地震における火災は2万1千棟となっています。最初の発災件数がどれほどであっても、24台の消防車では対応できないのは明らかです。中央防災会議の資料では、



被害火災は2万1千棟

地域住民が防

災意識を高め初期消火に務めることができれば、被害を20分の1に抑えることが可能だとしています。(それでも区内の火災被害は1000棟というこに...) ※とにかく行政はあてに出来ません。特に保坂区長の無策ぶりには困ったものです。平成24年に東京都の地域防災計画の修正が出て、無反応、それどころか首都直下地震対策のカナメの部署を廃部にして経費を浮かしたと自慢する始末。また中央防災会議の云う地域防災の住民組織の条例案もまとめ切れずに投げ出す始末。この4年間、他自治体が対策を講じているのに世田谷区は周回遅れ。皆さん、一度通勤・通学や買い物とは別の方向を歩いて、お住まいの周辺を知って、ご近所で語り、首都直下の火災からどうすれば守れるのか、逃げられるのか、考えてみて下さい。(被害想定的前提は震源が都心南部、たぶん大田区役所近辺、冬の夕方首都直下地震の発生です。) 四方で区切りその中で何棟が火災するかを想定したもの。むらさき色が100棟以上、赤色が50棟~100棟、オレンジ色が30棟~50棟、みどり色が10棟~30棟、青色が5棟~10棟、みず色が1棟~5棟です。白いところはだいたい大きな公園。